

POINT 自治体の財政破綻

『地方公共団体の財政の健全化に関する法律』により、自治体の財政状況を計る比率（健全化判断比率）が定められています。

このうち、『**実質赤字比率**』は、赤字額の収入に対する割合、『**連結実質赤字比率**』は、特別会計を含めた赤字額の収入に対する割合、『**実質公債費比率**』は、借金の返済額の収入に対する割合、『**将来負担比率**』は、借金等の負債の収入に対する割合であり、それぞれの比率には、早期健全化基準、財政再生基準が設定されています。

	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	13.12%	20.00%
連結実質赤字比率	18.12%	35.00%
実質公債費比率	25.00%	35.00%
将来負担比率	350.00%	—

※実質赤字比率、連結実質赤字比率の早期健全化基準は自治体により異なります。

これらの比率が1つでも早期健全化基準を超えたときは、財政健全化団体となり、自主的に財政健全化に取り組むこととなります。

また、将来負担比率を除く3つの比率が1つでも財政再生基準を超えたときには、財政再生団体となり、国の監督下で財政再生に取り組むこととなります。

POINT 市の財政状況①

平成22年度の一般会計、特別会計の決算状況は次のとおりです。

会計区分	収入	支出	収支	
一般会計	196億4,606万円	189億1,565万円	7億3,041万円	
特別会計	国民健康保険	68億3,368万円	64億1,550万円	4億1,819万円
	学校給食事業	3億5,349万円	3億5,339万円	10万円
	公共下水道事業	26億2,895万円	26億2,693万円	201万円
	老人保健	1,720万円	1,311万円	409万円
	簡易水道事業	4,017万円	4,017万円	0円
	介護保険	29億476万円	28億1,858万円	8,618万円
	カルルス温泉スキー場事業	1億1,322万円	1億1,322万円	0円
	後期高齢者医療	6億1,408万円	6億1,344万円	63万円
小計	135億554万円	129億9,433万円	5億1,121万円	
合計	331億5,160万円	319億999万円	12億4,162万円	

一般会計、8つの特別会計全てで、収入が支出を上回っており、赤字は生じていません。

この結果、健全化判断比率のうち、『実質赤字比率』、『連結実質赤字比率』はともに比率なしとなりました。



良かったあ。それを聞いて安心したよ！



そういうことです！



では、登別市は財政破綻した状態ではないんですね。



はい。安心してください。

市はここ数年、大型施設の建設を控えて、借金の残高を年々減らしていますので、まちの収入で払い切れない負債を抱えているような状態ではありません。



では、今後払わなければならない借金の残高はどうなるんですか。

まちの収入では払い切れない借金を抱えたりなんて、していませんよ？



市は、過去に建てた大型施設の借金返済で、ここ数年とても苦しい状況にあります。

しかし、収入の大部分を借金返済に充てなければならぬような状態ではありませんよ。



『まちの財政破綻』の意味が少しわかってきたよ。ね、お父さん。

市の財政状況



『まちの財政破綻』の意味はわかりましたが、私たちのまちはどうな

んですか。まさか財政破綻した状態なのでは？



いやいや、そんなことはありません。市には、一般会計と8

つの特別会計がありますが、どの会計でも収入が支出を上回り、赤字は生じていませんからね。



赤字がないのは良かったけど、借金はどうなの？



払い切れない場合は？

その場合は、基金と呼ばれる市の貯金を下ろすんだけれど、それでも賄い切れずに、大きな赤字を出してしまうことを『まちの財政破綻』と言った。



市は、学校を運営したり、道路を管理したり、いろいろなことをする

けれど、そのお金は市民の税金や国からの地方交付税などで賄わなければならないんだ。



借金の返済額？ 払い切れない大きな借金？



市は、長い間使う公共施設を建てる場合、国

や銀行からお金を借りるんだ。でも返済能力を考えずに借り過ぎてしまうと、収入の大部分を借金の返済に充てなければならなくなったり、収入で払い切れない大きな借金を抱えてしまう状態も、同じく『まちの財政破綻』と言われるんだ。